令和２年度

高齢者・障害者介護サービス事業所

大分西地域包括支援センター 事業報告書

令和2年度4月は、新型コロナウイルス感染症拡大のため利用の自粛等あり、各事業所とも稼働率、売り上げが伸びなかった。6月以降は、感染症対策マニュアルをもとに、利用者安全性を確保しながら各居宅支援事業所と連携を取り、利用再開に向けての声掛けや新規利用者の受け入れを積極的に行った。グループホームにおいては、利用者の疾患による入院や退所後の空床期間が長くなり稼働率低下を招いてしまったことが、今後の課題として残った。

　感染症対策においては、職員の動線の分散、事業所間の往来制限や職員の休憩時間の変更等行い感染対策をおこなった。また、大分県新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業の支援金1,326万円で、洗面所増設等の施設整備や消毒液、マスク等の感染症対策用品を購入した。

人材確保としては、ミャンマーから2名の外国人技能実習生を受け入れ現在介護技術、コミュニケーションなども問題なく業務を行うことができている。

職場内環境の改善として、介護システム入れ替えやＷi-Ｆi環境整備費用1,100万円のうち「大分県介護サービス事業所ICT導入支援事業」の助成金550万円を受け行った。

　障がい者デイサービスセンターや特別養護老人ホームでは、移動用補助器具や移乗用ボードを購入しノーリフティングケアの取り組みを行うことで職員の腰痛予防にも取り組めた。

　地域の行事等は、新型コロナウイルス感染症のため中止となったが、ケアハウスでは、野田の泥谷氏庭園のつつじ見物やのだ山幼稚園の園庭で桜や石楠花等の観賞を行い季節を感じることができた。